

夢塾だより

～ 出 会 い ～

(第70号) 令和5年5月24日

今から8年ほど前の平成27年から28年までの2年間、那覇国際高校の校長をさせていただいた時のことです。私の一日の始まりは、7:00には校門に立ち、生徒を挨拶で迎えることでした。それからゼロ校時が始まると、27クラスの朝の授業を見て回り、元気な生徒たちと活気ある先生方との素晴らしいかけ合いの授業を見て、パワーをもらっていました。

中でも私の目を引く先生がいました。ローカの隅々にまでとどく声にも温かみがあり、パッション（情熱）豊かで、包容力に溢れた英語の女性の先生がいました。その先生は、自分の損得はぬきにして、常に生徒や学校のためになることだけに集中していました。人が持ちたがらないクラスや、難儀な仕事でも、引き受けるだけでなく、立派にこなして成果もあげる素晴らしい先生でした。学校別の、英語によるディベートコンテストでは、常に県内トップに導く指導者でした。

その先生こそ、夢塾の山内尚美先生なのです。

私が、個別指導型の塾をやろうと思ったのは、教室での授業に適応しづらくなって、保健室に登校してくる数名の生徒に、個別に校長室で数学を教えたことに端を発しています。進学校に入学したものの、うまくなじめず不登校になっていく生徒を見て何とか支援できないものか。そういう思いで夢塾を作りました。その3年後に山内先生に来てもらっているわけです。

さて、徳川幕府の剣術の指南役を命ぜられた柳生家（柳生十兵衛で有名な）の家訓にこうあります。



よく、出会いが人を作るといいますが、出会っていないわけではなく、その出会いに気づくか、生かすかの違いが後の人生を作ってきたのかもしれないね。

今一度、出会ってきた人の「縁」を生かしているかを振り返りたいものですね。